

# 周南市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る施策評価一覧 平成 27(2015)年度～平成 30(2018)年度

本市では、総合戦略の着実な進捗を図るため、PDCAサイクルを導入し、市長を本部長とする「周南市まち・ひと・しごと創生推進本部」において、毎年度、重要業績評価指標（KPI）の達成に向けた成果重視の検証を行っています。

また、産官学金労言等の外部有識者で構成する「周南市まち・ひと・しごと創生戦略会議」において、幅広い視点から、基本目標等の達成度を検証するとともに、施策展開についての意見聴取を行っています。

第1期周南市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価にあたり、参考資料として過去の施策評価の結果を一覧にまとめました。

◎基本目標1

基本方針	基本目標	推進施策	評価対象年度	外部有識者からの推進施策に対する評価	
				評価	コメント
I. 多様なしごとを創出し、安定した雇用を生む環境をつくる	1. 雇用を確保し、安定して働くことができるまちをつくる	(1)港湾基盤強化の促進	H27	B	港湾インフラ整備という大きな施策であり、現時点で評価することは難しいが、数値に表れていないが取組みを行っており、地域資源を活用した有効な取組みといえる。
			H28	B	国において採択された事業が着実に進んでいくことが重要であり、事業の効果については今後検証していく必要がある。
			H29	A	KPIや主要事業の実績が概ね順調に推移しており、基本目標の達成にとって有効である。
			H30	B	国の事業期間の延長に伴い航路整備の進捗が遅れているものの、今後も関係機関と連携し、基本目標やKPIの達成に向けて引き続き施策の進捗を図る必要がある。
		(2)企業立地の促進	H27	A	KPIにも大きな成果が現れており、事業所が増えなければ、雇用は増えないと考えられることから有効であるといえる。
			H28	A	各主要事業の実績が順調に推移しており、数値目標に影響を与えていると考えられる。
			H29	A	KPIや主要事業の実績が順調に推移しており、基本目標の達成にとって有効である。
			H30	A	KPIや主要事業の実績が順調に推移しており、基本目標の達成にとって有効である。
		(3)新事業・新産業の創出	H27	B	概ね目標値を達成しているが、直接、雇用の増加につながるKPIは目標値2件に対し実績値1件となっており、更なる企業の重点立地促進を図りたい。
			H28	C	当初の目標値設定の根拠となった国の動向が大きく変わっており、このままでは目標と実績との乖離は広がるものと考えられる。目標値の設定も含め、水素活用の方向性について見直しが必要である。
			H29	C	燃料電池自動車等の登録台数について、目標値と実績値に隔たりがある。燃料電池自動車以外での水素の利活用方法を広く検討する等、指標の変更も含め事業内容の見直しが必要である。
			H30	C	将来的な基本目標の達成に期待される分野であるが、実績が伸びていないことから、事業内容の見直しが必要である。
		(4)6次産業化の推進	H27	B	概ねKPIの目標値は達成しており、数値目標の達成に有効な推進施策である。
			H28	B	効果発現には時間を要すものと考えられ、今後の継続した取り組みと検証が必要である。
			H29	C	KPIや主要事業の実績が伸びていないものの、小規模な事業では成果が見られるため、指標の変更も含め、6次産業化に向けた事業内容の見直しが必要である。
			H30	B	勉強会等による支援を行うなど、基本目標やKPIの達成に向けて引き続き施策の進捗を図る必要がある。

【評価基準】A:非常に有効(施策効果が現れており、効果の継続が期待される) B:有効(施策効果が現れていないが、今後、効果の発現が期待される) C:あまり有効ではない(効果の継続には、部分的な見直しが必要) D:有効ではない(効果の発現には、抜本的な見直しが必要)

## ◎基本目標2

基本方針	基本目標	推進施策	評価対象年度	外部有識者からの推進施策に対する評価	
Ⅱ. 若い世代の結婚、妊娠・出産・子育ての希望をかなえる	2. 安心して子育て・教育ができるまち	(1)結婚、妊娠・出産・子育てに関する支援の促進	H27	A	KPIが目標値を上回っており成果が見えている。出生数を増やすためには、子育てしやすい環境整備の前に出会いの場の創出や若者への教育に取り組む必要があるのではないか。
			H28	A	基本目標の数値は厳しい状況であるが、KPI、各主要事業は目標設定を上回っており、推進施策としては効果が出ているものと判断する。
			H29	B	ひとり親世帯への相談支援や利用者のニーズ把握について、アプリの活用も含め、工夫をする必要がある。また、「安心して子育てができる環境の充実」という点では、職場の理解に繋がるよう、企業に対する支援も必要である。
			H30	A	KPIや主要事業の実績が概ね順調に推移しており、基本目標の達成にとって有効である。
		(2)きめ細かな保育サービスの提供	H27	B	KPIが目標値に達しておらず、はっきりとした効果が出ているとは言えないが、主要事業には全て取り組んでおり、さらにその取り組みも特性があり、今後の効果が期待できる。
			H28	B	現時点での目標値は達成しているが、平成29年度以後にKPIの大幅な増を目標としており、今後の効果発現を期待する。
			H29	A	KPIや主要事業の実績が概ね順調に推移しており、基本目標の達成にとって有効である。
			H30	A	KPIや主要事業の実績が概ね順調に推移しており、基本目標の達成にとって有効である。
		(3)教育環境の充実	H27	B	成果が出ているとはいえないが、施策自体を有効ではないと判断するのは時期尚早である。
			H28	B	効果発現はこれからであり、今後の検証が必要である。
			H29	A	KPIや主要事業の実績が概ね順調に推移しており、基本目標の達成にとって有効である。
			H30	A	KPIや主要事業の実績が概ね順調に推移しており、基本目標の達成にとって有効である。

【評価基準】A:非常に有効(施策効果が現れており、効果の継続が期待される) B:有効(施策効果が現れていないが、今後、効果の発現が期待される) C:あまり有効ではない(効果の継続には、部分的な見直しが必要) D:有効ではない(効果の発現には、抜本的な見直しが必要)

◎基本目標3

基本方針	基本目標	推進施策	評価対象年度	外部有識者からの推進施策に対する評価	
Ⅲ. 人口の流出を食い止め、市外からも人を呼び込む	3. 若者・女性が住みたいと思い、活躍できるまち	(1)共創プロジェクトの推進	H27	B	アクションプランの具体性が欠けており、基本目標と推進施策の関連性が低いように感じる。平成27年度は計画の策定などを行った年であり、本格的な取組みはこれからであることから、今後の効果の発現が期待される。
			H28	C	現状を踏まえると、主要事業の目標値が高すぎると感じる。今後の検証を深めていくためには、指標設定やアクションプランの具体化など部分的な見直しが必要である。
			H29	C	対象要件や取組みやすい仕組み等、共創プロジェクトの推進に向けた事業内容の見直しが必要である。
			H30	B	目標値との乖離はあるものの、基本目標やKPIの達成に向けて引き続き施策の進捗を図る必要がある。
		(2)起業・創業支援の推進	H27	A	目標値が全て達成されており、非常に有効であるといえる。
			H28	A	順調に事業が進展しているものと判断する。
			H29	A	KPIや主要事業の実績が概ね順調に推移しており、基本目標の達成にとって有効である。
			H30	A	KPIや主要事業の実績が概ね順調に推移しており、基本目標の達成にとって有効である。
		(3)UJIターンの促進	H27	A	全国的にも移住の関心は高まっており、目標値にしっかりと結果が出ている。
			H28	A	順調に事業が進展しているものと判断する。
			H29	A	KPIや主要事業の実績が概ね順調に推移しており、基本目標の達成にとって有効である。
			H30	A	KPIや主要事業の実績が概ね順調に推移しており、基本目標の達成にとって有効である。
		(4)高等教育機関と連携したまちづくりの推進	H27	B	漠然と都会の大学に進学している学生を、県内の大学で学べるように取り組む施策も必要ではないか。
			H28	B	今後の効果発現に期待したい。併せて、インターンシップの門戸が市内の中小企業に広がるような取組みを期待する。
			H29	B	徳山大学や徳山高専の取組について、学生の動向を注視しながら、引き続き事業の進展を図る必要がある。
			H30	C	地元企業等と連携して取り組むなど、基本目標やKPIの達成に向けて、事業内容の見直しが必要である。

【評価基準】A:非常に有効(施策効果が現れており、効果の継続が期待される) B:有効(施策効果が現れていないが、今後、効果の発現が期待される) C:あまり有効ではない(効果の継続には、部分的な見直しが必要) D:有効ではない(効果の発現には、抜本的な見直しが必要)

◎基本目標4

基本方針	基本目標	推進施策	評価対象年度	外部有識者からの推進施策に対する評価	
				評価	コメント
Ⅲ. 人口の流出を食い止め、市外からも人を呼び込む	4. 賑わいと活力を実感できるまち	(1) 中心市街地を核とした魅力あるまちづくりの推進	H27	B	概ねKPIの目標値は達成しており、数値目標の達成に有効な推進施策である。
			H28	B	徳山駅前賑わい交流施設の完成を控えており、今後の効果発現を期待する。
			H29	B	「街なかの歩行者等通行量」について、継続的な効果の発現に向けて、一時的な効果か否か状況を検証する必要がある。
			H30	B	街なかに人が来る仕組みをつくるなど、継続的な効果の発現に向けて回遊性の向上等を検討し、基本目標やKPIの達成に向けて引き続き施策の進捗を図る必要がある。
		Ⅲ. 人口の流出を食い止め、市外からも人を呼び込む	H27	C	平成31年度の目標達成に向けた取組状況は必ずしも十分とは言えず、計画の早期実現を目指し、未実施事業の早急な見直しが必要である。
			H28	B	平成28年度から着手した事業が多く、今後の効果発現を期待する。
			H29	C	特徴的な取組はあるものの、KPIを押し上げる仕組みづくり等、指標の変更も含め、観光交流の促進に向けた事業内容の見直しが必要である。
			H30	B	ニューツーリズム推進事業の夜景ツアーについては飲食の提供等を検討する必要があるものの、基本目標やKPIの達成に向けて引き続き施策の進捗を図る必要がある。
	(3) コンベンションシティの推進	H27	C	KPIは目標値を達成しているが、主要事業がどれだけ年間観光客数の増加に寄与しているか判断が困難であり、主要事業の目標指標を見直す必要がある。	
		H28	C	実績値の分析(特殊要因の有無等)が必要と考える。また、主要事業の目標指標設定について、KPIとの関連性が明確となるよう見直しが必要と考える。	
		H29	C	KPIを押し上げる仕組みづくり等、指標の変更も含め、コンベンションシティの推進に向けた事業内容の見直しが必要である。	
		H30	B	主要事業については順調に推移していることから、PR方法や観光メニューを工夫して、基本目標やKPIの達成に向けて引き続き施策の進捗を図る必要がある。	

【評価基準】A:非常に有効(施策効果が現れており、効果の継続が期待される) B:有効(施策効果が現れていないが、今後、効果の発現が期待される) C:あまり有効ではない(効果の継続には、部分的な見直しが必要) D:有効ではない(効果の発現には、抜本的な見直しが必要)

◎基本目標5

基本方針	基本目標	推進施策	評価対象年度	外部有識者からの推進施策に対する評価	
				評価	コメント
IV. 次世代につながる新たなまちをつくる	5. 地域資源を活用し、快適に暮らすことができるまち	(1)電解コンビナートの資源を生かしたまちづくりの推進	H27	A	まだ地域エネルギー導入促進事業は構想段階であり、KPIの達成度にとらわれずに判断すると、今後の施策効果が期待され、数値目標の達成に非常に有効である。
			H28	B	地域エネルギー導入促進事業については予定通り進んでいるが、水素利活用推進事業については、国の動向が大きく変わっており、目標値の設定も含め、水素活用の方向性について見直しが必要である。
			H29	C	燃料電池自動車等の登録台数について、目標値と実績値に隔たりがある。燃料電池自動車以外での水素の利活用方法を広く検討する等、指標の変更も含め事業内容の見直しが必要である。
			H30	B	水素利活用推進事業については実績が伸びていないものの、地域エネルギー導入促進事業については順調に推移していることから、基本目標やKPIの達成に向けて引き続き施策の進捗を図る必要がある。
		(2)コンパクト・プラス・ネットワークの推進	H27	B	現在策定中の立地適正化計画にある居住誘導区域が上手く機能するかが、KPIの達成に大きく影響すると思われる。また、本来コンパクトシティ化自体に効果が期待されることから、今後のまちづくりに必要な取組みである。
			H28	B	主要事業の目標値は未達成であるが、KPIは順調に推移しており、今後の効果発現を期待する。
			H29	B	「集約型まちづくり推進事業」について指標が未設定であり、「公共交通ネットワーク形成事業」と併せて今後の動向を注視する必要がある。
			H30	A	KPIや主要事業の実績が概ね順調に推移しており、基本目標の達成にとって有効である。
		(3)中山間地域の持続可能な生活圏づくり	H27	A	主要事業の一つひとつが大きな事業であり、簡単に進むものではないが、事業は予定通り進捗していると言える。
			H28	B	事業は順調に進んでいるが、現状の指標設定では直接的な判断材料となりにくいとする。目標指標の設定について再検討が必要である。
			H29	B	「転入者数」について、詳細な分析を行いながら、転入者の減少の抑制に向けた取組を進める必要がある。
			H30	B	転入者数について詳細な分析を行い、基本目標やKPIの達成に向けて引き続き施策の進捗を図る必要がある。

【評価基準】A:非常に有効(施策効果が現れており、効果の継続が期待される) B:有効(施策効果が現れていないが、今後、効果の発現が期待される) C:あまり有効ではない(効果の継続には、部分的な見直しが必要) D:有効ではない(効果の発現には、抜本的な見直しが必要)